1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4094500065		
法人名	社会福祉法人水光福祉会		
事業所名	グループホーム和らぎ	ユニット名	
所在地	福岡県福津市西福間4丁目1-15		
自己評価作成日	平成27年2月11日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　アーバン・マトリックス　福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成27年3月1日	評価結果確定日	平成27年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所は海の近くにあり、自然豊かな環境に恵まれています。またそれだけでなく福岡市と北九州市の中間に位置した場所にあり、地域の発展を肌で感じることができる環境の中に位置しています。ドライブや行事等で入居者の方々と四季折々の季節感を楽しみながら、ゆったりと入居者の方々のペースで過ごせるような雰囲気作りや支援に努めています。また広い敷地を利用して、畑つくりやガーデニング、バーベキュー等の楽しみを提供できるよう心掛けております。また、併設の総合病院や豊富な老人施設、また地域の医療機関との連携を図り、入居者の皆様やご家族に安心出来るサービスを提供できるような資源にも恵まれております。地域との連携を視野に入れながら、入居者の皆様に楽しく、安心できるサービスを提供できるよう、スタッフ一同創意工夫をしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

グループホーム和らぎは、総合病院をはじめ、多様な介護事業を展開する水光会グループを母体とし、玄界灘に程近い、自然が多く残る閑静な住宅地の中にある。広い敷地内には、「和らぎ農園」や散歩道が整備され、季節の移ろいを感じ、野菜の生育や収穫を楽しみながら過ごすことができる。開設初年度ではあるが、経験豊富な職員が多く、個別の距離感を保ちながら生活習慣やペースの尊重を大切にし、暮らしの継続や再構築に向けた働きかけが行われている。また、認知症ケアへの見識も深い看護師が常勤で勤務しており、日々の暮らしに関わりながら、健康管理や早期対応、医師との連絡調整が図られ、本人、家族、職員にとって安心感へとつながっている。個別の外出支援や「食」の充実等、心身の活性化につなげる取り組みも充実しており、今後は地域拠点としての役割を担うべく、交流や活動を積み重ねていこうとしている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25,26,27）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20,40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38,39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念及び基本指針を各ユニットの目につきやすい場所に掲示するなどし、常に意識して業務を行えるよう工夫している。	法人理念のもとに、地域密着型サービスとしての意義を踏まえた基本指針を掲げている。開設前の1ヶ月間の研修の中での最初の取り組みとして職員が意見を出し合い、指針の作成を行っている。法人代表者による理念に関する講話も行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れや実習の受け入れを積極的に行うよう心掛けている。また近隣の住民へ敷地内で収穫して野菜などをお配りして交流が図れるよう心掛けている。	自治会に加入し、敷地内の畑で採れた野菜を近所に届けたり、花を頂いたりと、相互の関係性も生まれつつある。開設初年度であり、自治会長をはじめ、近隣の方々との交流を積み重ねながら、地域密着型事業所としての存在を広めているところである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の自治会長等に運営に参加していただき、「事業所として何が出来るのか？」等のアドバイスをもらえるよう心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族代表や地区の自治会長等、また行政や包括支援センターの方々に会議に参加していただき様々な意見や要望、アドバイスを受けることが出来るよう心掛けている。	運営推進会議は、家族、地域代表者、市担当者、地域包括支援センター職員の出席を得て開催されている。運営状況の報告や地域情報の収集を行い、意見や提案をサービス向上に活かせるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当窓口に積極的に訪れ、様々な意見やアドバイスを受けるよう心掛けている。また市が主体となって行っている「認知症サポート」の会合などに参加するようにしている。	運営推進会議の案内を届ける等、積極的に行政や地域包括支援センターの窓口に出向き、顔の見える関係性の中で情報共有や助言を得ている。また、職員が認知症セーフティネットワーク蓮華草の活動に参加し、認知症サポーター養成に向けた活動や、年1回市民に向けた発表を行う等、行政と共に啓発活動に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを作成し、全職員へ意識付けを行っている。玄関は日中「解錠」の状態である。	玄関の施錠やエレベーターの使用制限は行なわれていない。言葉や対応による抑制についても意識を高め、気付いた事はその都度注意しあうようにしている。マニュアルの整備やカンファレンスにて個別のケアについて検討を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	全職員が言葉遣いや行動に十分注意するよう心掛けている。また日頃から入居者の身体状況や様子をしっかり観察し、虐待が見過ごされないようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者、家族には、契約時に制度については説明している。日頃より福津市担当課や包括支援センターの職員と連絡をとり、相談し合える関係が出来るよう心がけている。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、職員は身近な制度としてとらえ、支援の過程を通じて学ぶ場面も多い。契約時や必要時には説明を行い、制度活用に向けた情報発信を行っている	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員の理解を深め、家族や地域への啓発の機会として、関係機関との連携による出張講座（運営推進会議）の開催等、今後の取り組みが期待されます。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約は管理者、計画作成者を中心に懇切丁寧な説明を行うよう心がけている。また、日頃から職員全員が家族と会話を多く持つことで不安や疑問を話しやすい環境を作るよう心がけている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時などに意見や要望を聞くようにしている。また、職員が申し送りなどを通し共有することで運営に反映できるよう心がけている。	日常の来訪時や運営推進会議等にて、家族の意見や要望の収集に努めている。家族参加の行事を企画し、コミュニケーションを深めながら、意見等を言い易い関係作りに努めている。	運営推進会議への利用者の参加を社会参加の機会として活用したり、家族会の発足に向けた働きかけを行う等、今後の取り組みが期待されます。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に1回のペースで職員会議をひらき、職員の意見をそれぞれきいて、いろんな意見や提案を聞く機会を設け、ケアプラン、運営に反映して いる。	定例の職員会議は、申し送りノートにて事前に議題を伝え、意見や要望の表出を積極的に促している。実際に、環境整備の工夫や個別の外出支援等に反映されている。管理者は、職員の主体的な意識の成長を促し、職員教育を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の努力や体調の具合、勤務状況を 把握し、心身的に無理のない職場の環境作りに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用は、年齢、性別を問わず保有資格、健康状態を把握し、職務に対する熱意、姿勢、志望動機などを参考にしている。職員の特技や技能を生かし、働き甲斐、やりがいのある職場になるように配慮するよう心がけている。定年後も雇用の体制がある。	職員の採用にあたり、年齢や性別による排除は行われていない。実際に、20代から70代まで幅広い年齢層の男女職員が勤務している。常勤採用を基本とし、ゆとりある人員配置や風通しの良い職場環境作りへの取り組みにより、現在職員体制は安定している。調理師の資格を持つ職員が畑で採れた野菜を用い、一品追加する等、能力を発揮する場面も多い。外部研修参加に向けたサポートも行われている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	新聞やマスコミ等で取り上げられた諸問題について。その都度教育を行い、啓発活動に取り組んでいる。施設理念の実践を通して、認識できている。	認知症ケアについて意識や理解を深めたり、報道等による社会的な課題について周知を図り、考える機会を持っている。27年度より、法人グループとしての連携を活かし、研修体制を充実させていく予定となっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や計画作成者が中心となり、職員の実力や対応などの把握に努め、全職員に各自に合った業務担当を振り分けている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福津市内の地域密着型サービスの職員と交流を図るよう心がけている。また福津市担当課主催の会合等にも積極的に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅や病院等へ訪問をし、担当ケアマネージャーや家族、看護師等から情報を得たりすることにより、本人が求めている生活を把握できる様にしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成者を中心に、家族等が困っていること、不安なことを、要望等にもきちんと傾聴し、家族の思いを受け止めている。そして、家族と共に入居者様を支える関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前より、本人、家族の思い、希望を聞き、信頼関係を築きながら、必要なサービスを提供できるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員に認知症について理解してもらい、利用者が困っていることを、さりげなく支援することで、暮らしを共にする者同士の関係を築けるように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	計画作成者を中心として、一緒に本人を支えていく関係性を築くよう努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はもちろん、友人や知人の訪問も歓迎し、居室に限らず共有空間でもゆっくりと過ごしていただけるよう、お茶を出したり一緒に談笑して、また来たいと感じていただけるよう努めている。	馴染みの美容院やエステの継続、家族と共に自宅の様子を見に出かけたり、以前利用していた施設を訪ねる等、関係性の継続を支援している。また、家族と共に誕生会が行われ、シャンパンで乾杯し、家族水入らずの時間を過ごしている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格を把握し、利用者同士が支え合いより良い関係が保てるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には、病院のほうへ情報交換を行うように心がけている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で一人ひとりの希望、意向を聞いており、それが実現できるように務めている。また、自分の思いを上手に伝えることができない入居者様には、表情や体動等で本人の思いをくみ取れるよう努力している。	家族の協力も得ながら、センター方式を参考にしたアセスメントを実施している。日々の記録には、表情や心情の変化、言葉等が残されており、職員間で共有しながら、思いや意向の把握に努めている。「お出かけツアー」として、月に1、2回、希望を聴き取りながら外出支援を行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの活用、または、本人様や家族から入居前の情報を頂き、グループホームでの生活に取り入れる様に心がけている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何気ない関わりの中でも表情や言葉から心身の状態を察し、変化や何らかの可能性がないか把握に努めている。日々の気づきは記録だけでなく申し送りで細やかに情報を伝達しケアに反映したり、看護師への相談や医療機関に繋いでいる。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で一緒に生活をしながら、その中で、本人・家族の意見を聞いたり、職員間で意見・アイディアを交換したり、受診時に主治医に相談したりしながら、現状に即した介護計画を作成している。	入居にいたるまでに、管理者やケアマネジャーによるアセスメントが実施され、その後は各職員が担当し気づきを積み重ねている。本人、家族の意向を踏まえ、より良い暮らしの継続に向けた視点を確保し、役割作りや趣味活動の継続等、個別性ある内容が確認できる。プランに基づいた記録を意識し、モニタリングやカンファレンスを通じて、現状の確認と見直しの必要性について検討している。今後は更に実践に結び付けていく為にも、モニタリングの充実等が期待される。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個人記録に残し、申送りノート等を活用して職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出かかりつけの病院への受診など、本人、家族からの希望が、状況に応じ柔軟な支援サービスができるよう取り組んでいる		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の住民の方に積極的に挨拶を積極的に行ったり、施設内の畑で収穫された野菜を配ったりして交流を図るように心がけている。また運営推進会議を通じ、地域との交流が深まるようアドバイスをもらっている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者各自のかかりつけ医と連携しながら適切な医療が受けられるように支援している。体調に異変がある場合はかかりつけ医に相談し、その指示のもと、その他の医療機関への受診、もしくは介護職員による対応を行っている。	本人、家族の意向によるかかりつけ医の継続や訪問診療を支援し、家族との連携を図りながら受診を行っている。受診結果については、家族との情報共有に努めている。認知症ケアの経験豊かな看護師が常勤で勤務しており、馴染みの関係性の中で、日々の健康管理や早期対応、医師との連絡調整が行われており、本人、家族、職員の安心感へとつながっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤で勤務しており、健康管理に従事している。また協力医療機関や各主治医等と連携をとり調整・連絡を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には口頭及び書面で情報提供を行い病院側がスムースに治療できるよう努めている。入院中は病棟看護師やMSW等より情報を得たり、異状の早期発見に努め、医療に繋げることで入院期間を最短にしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族へ重度化や終末期についての意向の聴き 取りを行っている。必要な場合は、ご家族を交え、かかりつけ医と話し合い、意向を確認するよう考えている。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について、事業所の体制や方針を説明し、同意を得ている。状況の変化に伴い、その都度の意向確認や関係者での話し合いを重ね、方針の共有に努めている。今後想定される終末期ケアへの対応を課題としてとらえ、チームケアの質を高めるよう取り組んでいる。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が市の救命講習を受講しており、定期的に勉強会を開催し急変時対応の訓練を行っている。また各入居者様用の急変対応マニュアルを備え、常に目を通し全職員が対応できるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を春・秋の年2回開催を予定している。 消防署員や併設施設の職員も参加して行っている。	隣接する同法人施設との合同で、年2回、昼夜を想定した避難訓練を予定している。隣接する関連施設には宿直者2名の配置もあり、相互の連携や課題について検討を行っている。今後は地域との相互の協力体制作りに向けて取り組む意向である。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者には尊敬の念を持って接するようにしている。また、一人ひとりのプライドを尊重した声掛けや対応を心がけている。	家庭的な雰囲気の中での親しみが馴れ合いとならないように心がけ、会議や日常の中で振り返る機会を持つようにしている。個別のライフスタイルや大切にしていることの理解に努め、日々の関わりの中で尊重できるよう支援している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表しやすいような関係性を築くよう努めたり、ケアにおいても本人の意向に沿って行うよう努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望・生活スタイル・健康状態に合った生活をして頂き、その人らしい暮らしが送れるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれ等ご自分でできる方にはお任せしたり、確認したりして、その人らしいコーディネートを考えながら支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外食に出かけたり、庭で食事したり、楽しく食事できる雰囲気作りを心がけている。また、畑で収穫した野菜を調理して食べたり、買い物、調理、盛り付け、片付け等も一緒に行っている。	法人厨房で調理され、食事が提供される。当日の多品目の食材を用いた具沢山なメニューから、細やかな配慮や「気持ち」が伝わってくる。「和らぎ農園」で野菜の成育や収穫を楽しみ、調理師の資格を持つ職員により1品添えられたり、ピザ作りや干し柿作りを共に行っている。また、個別や全体での外食に出かけ、普段とは違う雰囲気を楽しむ機会もある。嗜好品の摂取にも柔軟に対応している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量をチェツク表に記録している、又一日最低限の水分量を取れる様に、スタッフ間で確認し合い、記録している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きを行って頂き、入歯の方はうがい後入歯を洗浄剤に夜間は浸けておく。治療が必要な時は訪問による治療を受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄を管理している。時間を見計らい、トイレ声かけ誘導を行い自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を作成し、個別の状況やパターンの把握に努めている。現状としては自立されている方も多く、日常の中で下肢機能の維持、活用に取り組み、排泄の自立に向けた支援を行っている。リハパンから布パンツへの移行も視野に入れ、快適さや自尊心の回復に結び付けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促しや体操やレクレーションで運動を行い、個々に応じた予防に取り組んでいる。必要時は主治医に相談し下剤等の処方を受けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回(火・木・土)の入浴を実施している。又利用者様からの要望があれば個々に応じた入浴の支援体制を整えている。入浴前にはバイタルチェックを行い、体調チェックをしている。入浴後には水分補給を行うよう注意している。	週3回の基本的なスケジュールは設定しているが、希望や体調、状況等に応じて柔軟に対応するようにしている。3方向からアプローチが可能な浴槽が設置され、ゆっくりと「個浴」の時間を楽しんでいる。柚子湯等、季節湯を楽しむ機会もある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯の睡眠チェックを行っている。状況により仮眠を促している。また、照明調節や室温調整を行い、安眠や休息の支援をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各主治医からの処方があり、服薬を行っている。誤薬や飲み忘れがない様、名前・日付を確認している。内服薬の管理は看護師が行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力によって掃除や片付けなどをして頂いたり、余暇、レクレーション活動においても一人ひとりの生活暦や経験等を考慮し支援している。個別のお出掛けツアー等も取り入れている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望や体調によって散歩や買い物、バスハイク等の外出を支援している。また、申し出により家族の方との外出・外泊等を支援している。	月に1、2回、「お出かけツアー」と題し、個別の外出支援を行っている。また、季節行事としての企画や、家族との連携による外出等も行われている。季節の花木や家庭菜園のある敷地内は広く、平坦な為、気軽な散歩や日光浴が可能である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は紛失等を考慮して預り金として事務所金庫にて管理している。、必要に応じて、ご本人、ご家族に説明し使用している。必要な方には、ご家族へ説明の上本人様に管理していただく場合もある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に利用者様からの申し出はないが、家族からの電話に取り継ぎ会話できるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きな時にテレビを観られる様ソファー等を置き、テーブルや壁面には季節の花や創作作品等を飾ったり、入居者様に居心地良く過していただける様心がけている。	リビングや食堂の窓が大きくとられ、広い庭や菜園の様子を眺めることが出来る。各所にソファーや椅子が置かれ、その時々に応じたくつろぎの場所が確保されている。ホールでは、体育教師であった入居者の方の指導を受けながら、全員での体操が行われていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間や各居室で思い思いの好きな事をされ、入居者同士で楽しく会話もされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望者の居室にテレビがあり、家族の写真、ぬいぐるみ、本人の使い慣れた品等を見える所に配置し快適に過ごしていただけるよう配慮している。	長い廊下に沿って配置される各居室は、共用スペースから離れており、プライバシーが確保されている。鏡台やテレビ等の持ち込みや、家族の写真を飾る等、居心地良く、安心して過ごせるよう配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全体がバリアフリーでホールや廊下、トイレには手すりがついている。シルバーカーの使用や避難通路として歩行障害物がないように開けている。張り紙などを設置してトイレの場所が分かるように心がけている。		